



吉野 一夫 議員（自民新国会）

## 持続可能な社会保障体制に向けた取組みを

**町長** 年齢や障がいの有無によらず、活躍の場の確保が必要

**質問** 持続的な社会保障体制、安心できる老後を送るためには、要介護者への必要なサービスの提供と、それを可能とする財政運営を現実させなければならぬ。そのためには、健康寿命を念頭に置いた施策の充実による福祉保健医療費の歳出抑制が重要であると考える。そこで、次の3点を町長に問う。



子どもたちに大福のつくり方を教えている高齢者（高齢者と子どもの集い）

**町長** 現在、就労の確保に努めているが、年齢や障害の有無で区別されることなく地域福祉の担い手として、また、各種ボランティアとしての活躍の場を確保することが必要と考える。



台風9号で冠水した道路（元狭山地区）



山崎 栄 議員（自民新国会）

## 新庁舎建設の進捗状況と今後の対策について問う

**町長** 熊本地震を受けて再検証し、基礎工事の見直しを図った

**質問** 現在進められている新庁舎計画は、安全安心で災害時には防災拠点となり、機能的には町民や職員の使い易い、町の象徴となる庁舎となるものと思う。しかし、東京オリンピックを控え、現在建設業界では人手不足や資材の高騰などで工事受注に関し、入札不調や工事金額の値上がりなど不安要素が考えられる。このような状況の中、計画期間に完遂するには厳しいと思うが、現在の進捗状況、財源の確保、入札時期の対策や取組みを問う。



28年7月時点での基本設計イメージパース



古宮 郁夫 議員（自民新国会）

## 町の行財政運営の今後について問う

**町長** 「50年後を見てください」と言えるぐらいの施策を展開したい



お伊勢山から撮影された約50年前の役場通り

**質問** 町の長期総合計画は28年度より後期5年間へと移行した。新庁舎建設・箱根ヶ崎駅西などの土地区画整

理・狭山池上流部や都市計画道路の整備・多摩都市モノレールの導入・雨水や汚水対策・施設維持改修・福祉保健費用の増大など、長期の財政負担となる状況や事業が立ち並ぶ。29年度の予算編成作業が開始される中、今後の行政・財政をどのように運営していくのか町長の所見を問う。

**町長** 現在、地方公営企業の準備を進めているが、単年度ごとの財政状況分析だけでなく、現在行っている投資がどのような形で還元されるのかを見据える必要がある。今後、多額の費用を要する事業が予定されているが、特定財源の確保や徹底的な無駄の排除など健全な財政維持のため努力していく。これからも着実に瑞穂町が将来に向かって歩めるように、いろいろな批判があっても「50年後を見てください」と言えるぐらいの施策を展開したいと思っている。

**質問** 持続的な社会保障体制、安心できる老後を送るためには、要介護者への必要なサービスの提供と、それを可能とする財政運営を現実させなければならぬ。そのためには、健康寿命を念頭に置いた施策の充実による福祉保健医療費の歳出抑制が重要であると考える。そこで、次の3点を町長に問う。

**問③** 「腹膜透析」の認識と推進に向けた支援制度の創設は、町長の判断のもとに導入されるものであり、医療行為を特定し、町が推進する制度創設は適切でないかと考える。

### 腹膜透析

自分の体の中の「腹膜」を利用して血液をきれいにする透析療法のこと。在宅で行えるため、通院は月に1〜2回程度で済む。



原 隆夫 議員（公明党）

## 豪雨対策の整備・強化を

**町長** 透水性道路舗装の採用を積極的に進めている

**質問** 8月22日の台風9号は、役場雨量計で1時間最高雨量94・5ミリを記録し、町道2号線の土砂崩れや、町内各所での床上、床下浸水等いまだかつてない被害が発生した。ある自治体では、同様の被害が発生した後、グレーチングを備えた排水溝の整備、雨水を地面に染み込ませる浸透ますの増設、緊急用土のう保管箱の拡大等の対策をしている。今後増加するであろう豪雨対策の整備、強化を急ぐべきであると考え、町長の所見を問う。

**町長** 町はこれまで雨水幹線、調整池や雨水浸透施設などの設置と透水性道路舗装の採用を積極的に進めている。現段階で町が対応

できるのは、今回の豪雨を教訓として、被害を受けた個所の局地的対応と気象情報能力の強化、町民への早期情報提供にあると思われる。

今後、都に対し、豪雨対策など多摩地域にも目を向けるよう働きかけると共に、行政職員、消防団、消防署や

こんな質問もありました  
**駅前に町営駐車を**

**町長** 民間の時間貸しの駐車場もあり、現時点での必要性は低いと考える。